

第1次隠岐の島町総合振興計画の検証 【資料編】

令和元年7月
隠岐の島町

目 次

1	人 口	1
	(1) 人口及び世帯数	1
	(2) 人口構造	2
	(3) 世帯構成	3
2	島の魅力と特性を活かした観光・交流のまちづくり【基本方針3】	
	魅力的な観光・交流空間づくり【基本方針4】	4
	(1) 観光客数	4
	(2) 外国人観光客数	5
	(3) 宿泊者数	5
	(4) 海上交通	6
	(5) 空路交通	6
3	観光を機軸とした産業おこし【基本方針5】	7
	(1) 産業構造	7
	(2) 農業	9
	(3) 畜産業	11
	(4) 林業	12
	(5) 水産業	13
	(6) 商業	14
4	安心して暮らせる保健、医療、福祉の環境づくり【基本方針6】	15
	(1) 医療	15
	(2) 保健	17
	(3) 福祉	18
5	安心・安全で快適な生活環境づくり【基本方針7】	20
	(1) 道路網	20
	(2) 情報通信	20
	(3) 下水道整備	21
	(4) 防災(自主防災組織)	22
	(5) 路線バス	23
6	うるおいのある自然環境づくり【基本方針8】	24
	(1) ごみの処理量	24

1. 人口

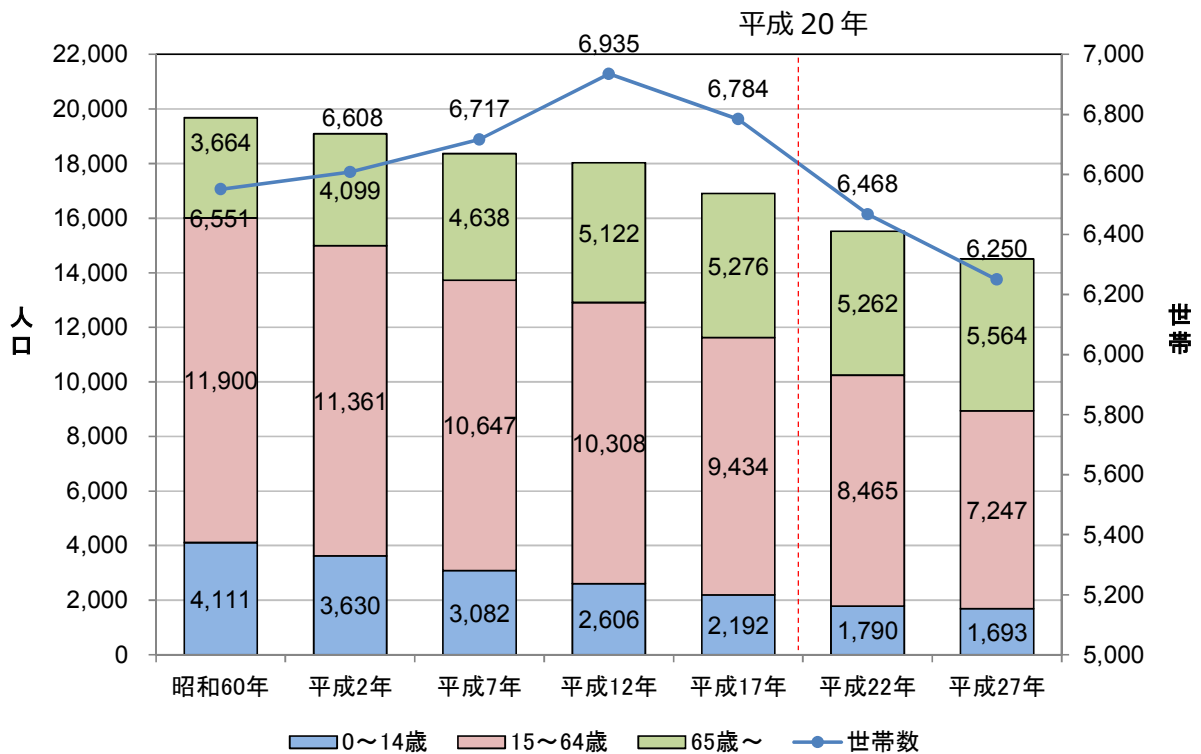
(1) 人口及び世帯数

人口は平成 27 年時点で 14,504 人となっている。その推移をみると年々減少を続けており、昭和 60 年の 19,675 人と比較して、5,171 人減少している。

人口区分ごとにみると、高齢者人口（65 歳以上）は増加傾向にあるが、生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）と年少人口（15 歳未満）は減少傾向にあり、平成 27 年時点で高齢化率は 38.4%に達している。

世帯数は平成 27 年時点で 6,250 世帯となっている。世帯数の推移は、昭和 60 年から平成 12 年にかけて増加した後、平成 12 年の 6,935 世帯をピークに減少に転じている。

■人口・世帯数の推移



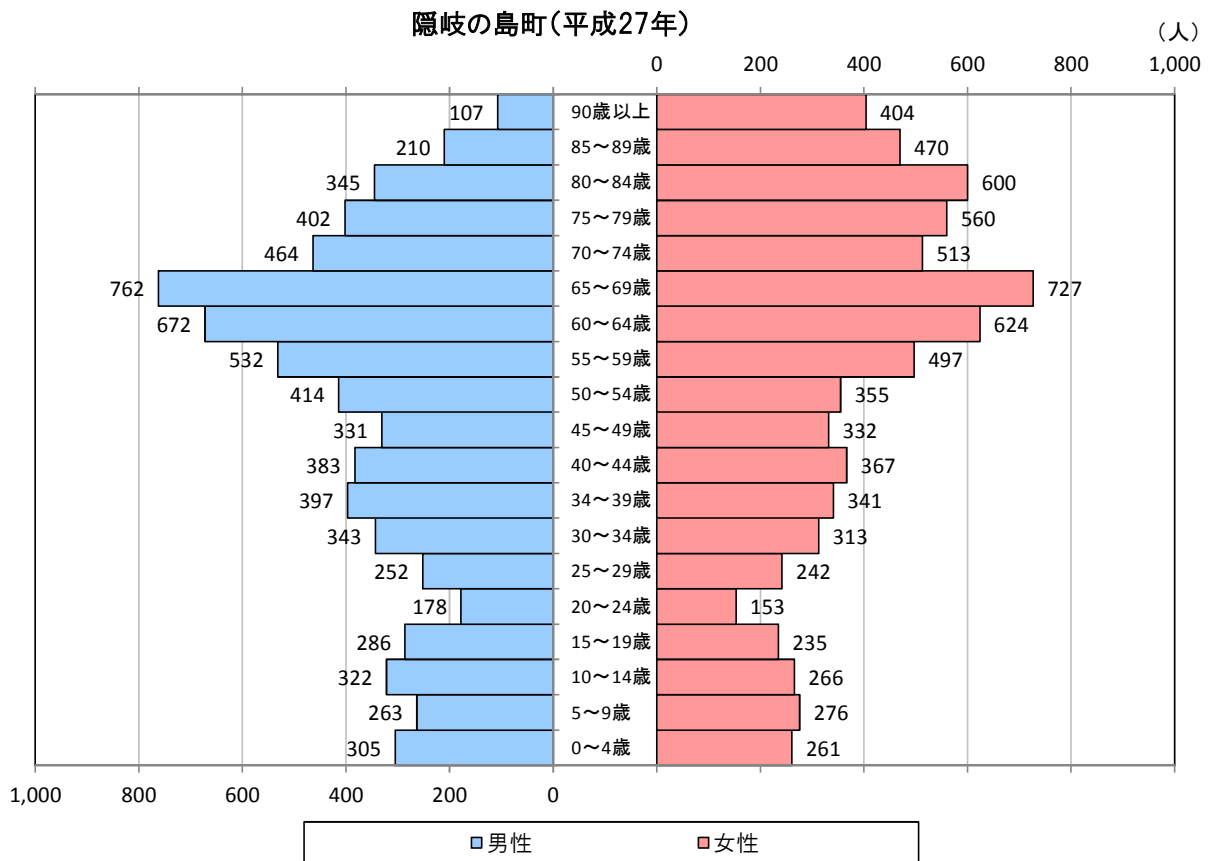
出所：国勢調査報告（総務省統計局）

(2) 人口構造

人口構造をみると、いわゆる「団塊の世代」と言われる年代にあたる「65～69歳」が男女共に最も多くなっており、次いで「60～64歳」が多くなっている。逆に、男女共に最も少なくなっているのは「20～24歳」であり、これは大学進学・就職等による転出が大きな要因と考えられる。

男女の割合でみると、70歳以上は年齢が高くなるにつれて、女性の割合が多くなる傾向にあり、70歳以下には男女による顕著な差はみられない。

また、一般的な人口減少型の人口ピラミッドでは、年齢が低くなるにつれてグラフが短くなる傾向にあるが、隠岐の島町において19歳以下の年齢層をみると、そのような傾向はみられない。



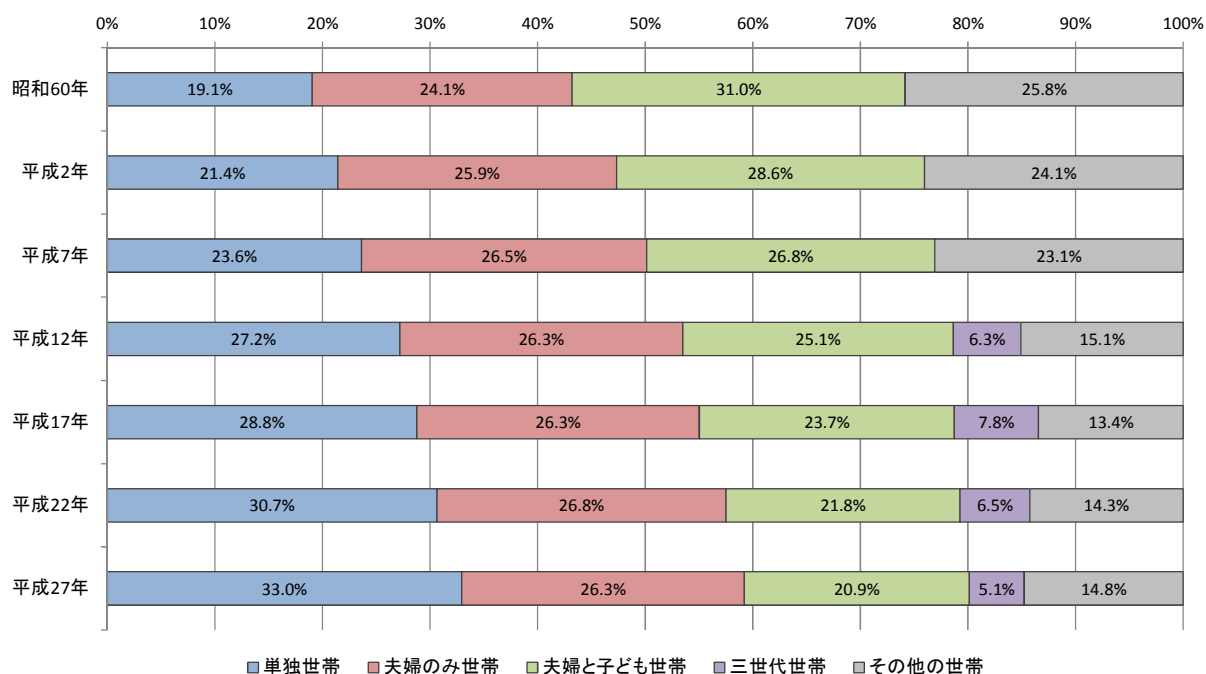
出所：国勢調査報告（総務省統計局）

(3) 世帯構成

世帯構成をみると、平成 27 年時点で「単独世帯」が 33%、「夫婦のみ世帯」が 26%、「夫婦と子ども世帯」が 20.9%、「三世代世帯」が 5.1%となっている。

その推移をみると、「単独世帯」は増加傾向にあり、昭和 60 年（19.1%）に比して 13.9%増加している。一方、「夫婦のみ世帯」は概ね横ばい、また、「夫婦と子ども世帯」は減少傾向にあり、昭和 60 年に比して約 10%減少している。同様に「三世代世帯」についても減少傾向にあり、核家族化や高齢化の進行等による世帯構成の変化が見られる。

■ 世帯構成の推移



出所：国勢調査報告（総務省統計局）

注釈：「三世代世帯」は平成 12 年以降の国勢調査からのデータとなるため、平成 7 年以前は「その他の世帯」に含まれる。

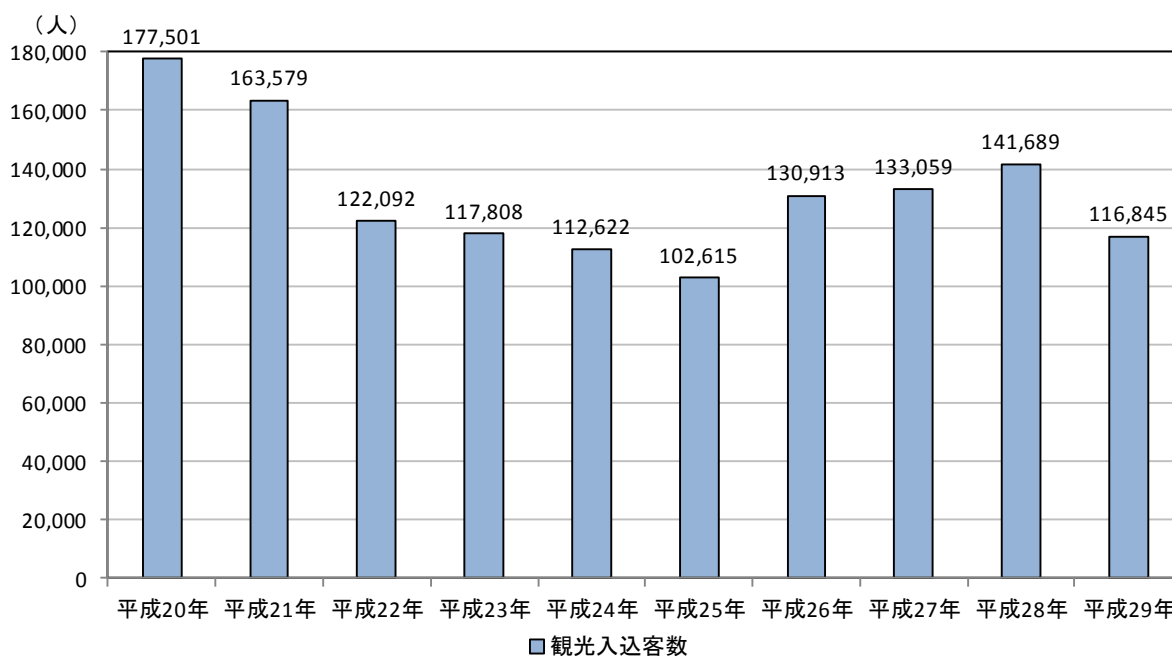
2. 島の魅力と特性を活かした観光・交流のまちづくり【基本方針3】

魅力的な観光・交流空間づくり【基本方針4】

(1) 観光客数

平成29年に隠岐の島を訪れた観光客数は約11万人となる。観光客数の推移を見ると、平成20年が約17万人と最も多く、以後、平成25年の10万人まで減少傾向で推移している。平成25年から平成26年にかけて増加に転じ、以後、平成28年に掛けて増加傾向を維持していたものの、平成28年から平成29年にかけて再び減少に転じている。

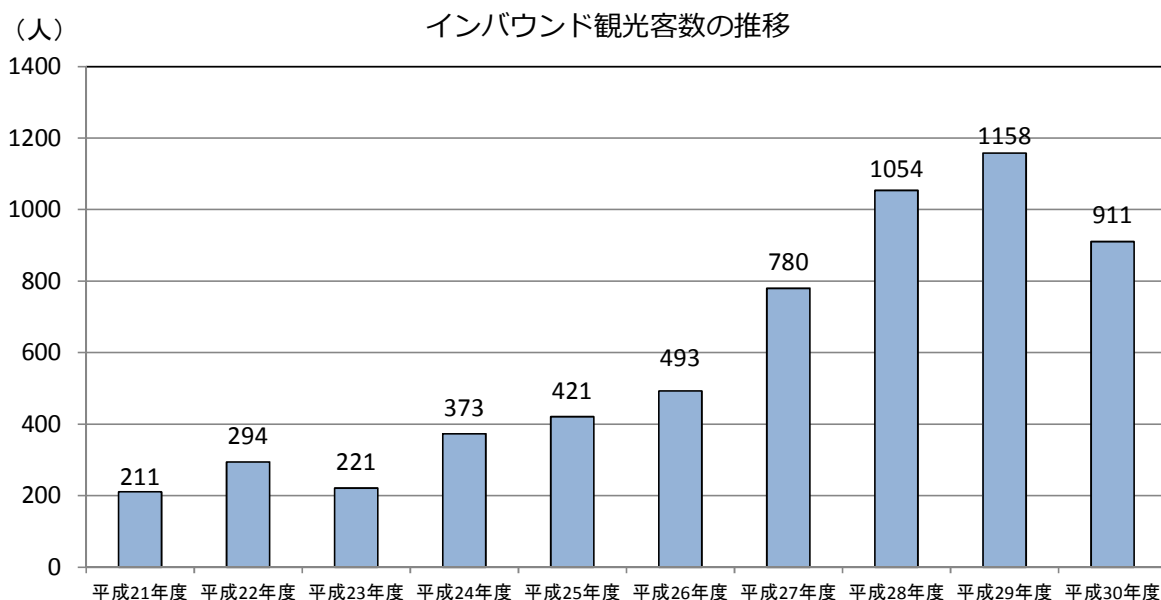
■ 観光客数



出所：島根県観光動態調査

(2) 外国人観光客数

平成 30 年度における隠岐の島町を訪れた訪日外国人旅行（インバウンド）観光客数は 911 人である。インバウンド観光客数の推移を見ると、平成 23 年度以降増加傾向にあり、平成 29 年度にピークを迎えて 1,158 人となっている。

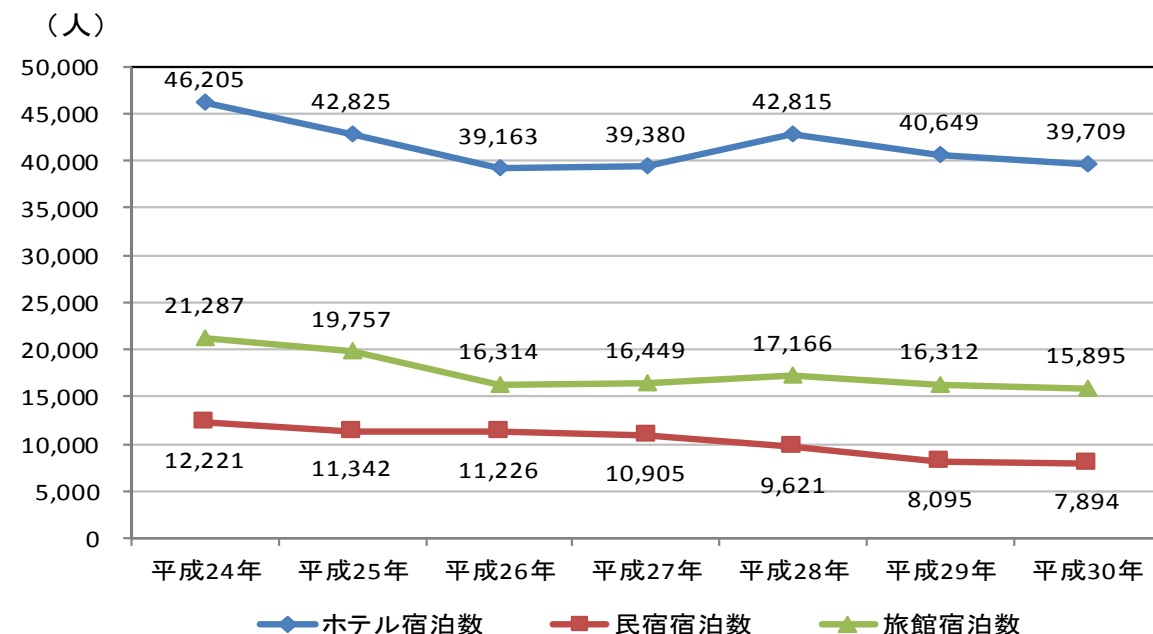


外国人観光客数の推移

出所：隠岐汽船 外国人乗船客数

(3) 宿泊者数

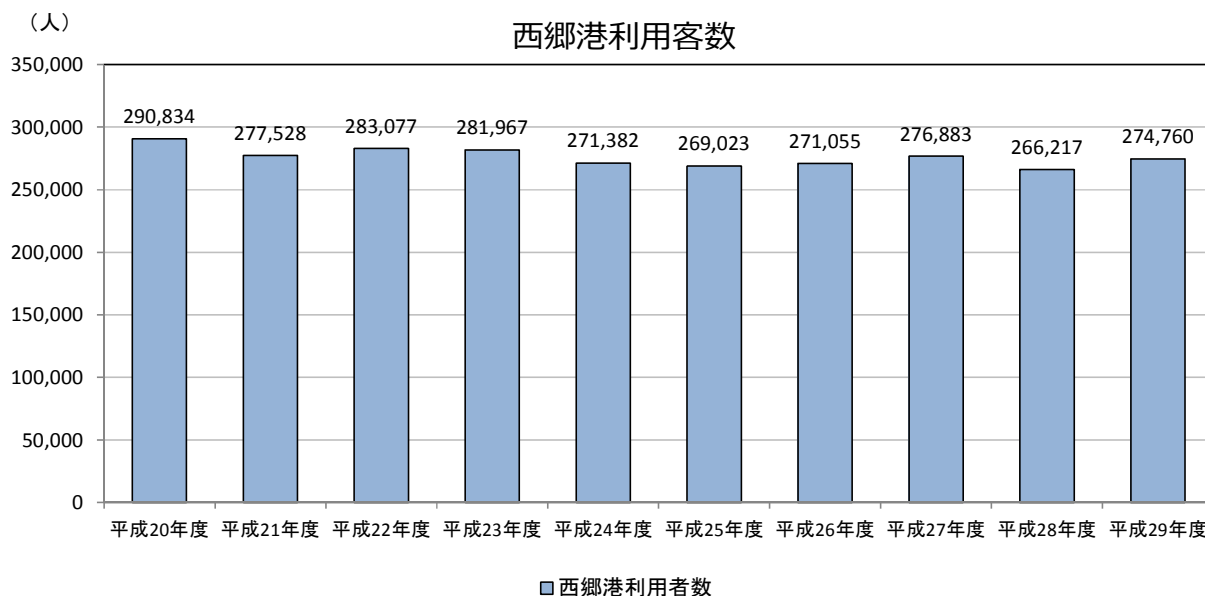
宿泊者数の推移を見ると、全体的に減少傾向にあるが、観光客数の動向に比例し、平成 26 年から平成 28 年にかけてホテル・旅館の宿泊数が増加している。



出所：隠岐の島観光協会 提供資料

(4) 海上交通

隠岐汽船の平成 29 年度の利用者は 274,760 人である。利用者数は、平成 20 年度以降、27 万人から 29 万人の間で、横ばい状態で推移しているが、平成 20 年度と平成 29 年度の利用者数を比較すると、2 万人程度減少している。

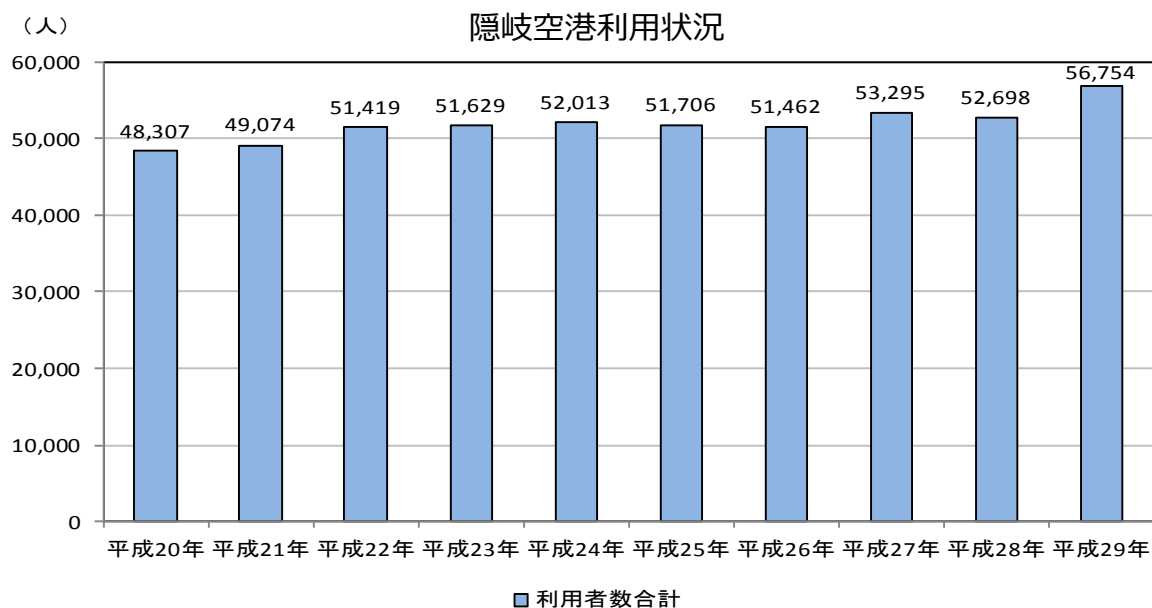


出所：隠岐汽船株式会社 業務課 作成資料

(5) 空路交通

隠岐空港の利用者数は、平成 20 年以降、やや増加傾向にあり、平成 29 年には過去 10 年間で最高の 56,754 人が隠岐空港を利用している。

平成 29 年に利用者が増加した要因として、平成 29 年 4 月から導入された「隠岐の島町航路・航空路旅客運賃助成事業」による航空運賃の助成制度が影響していると考えられる。



出所：隠岐支庁県土整備局 作成資料

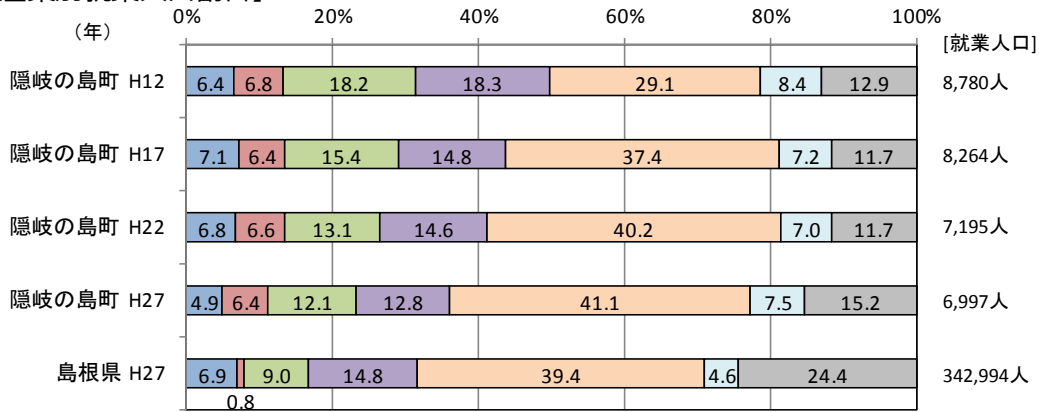
3. 観光を機軸とした産業おこし【基本方針5】

(1) 産業構造

産業構造を就業人口の割合で見ると、平成27年時点で、農林業4.9%、漁業6.4%、建設業12.1%、卸売・小売業12.8%、サービス業41.1%、公務7.5%、その他15.2%となっている。その推移をみると、農林業と漁業を中心とする第一次産業の比率は減少傾向にある。漁業の構成比は、県と比べると高い水準にある。第二次産業の建設業は、低下を続けているが、県と比べると高い水準にある。第三次産業は最も比率が高く、平成27年でサービス業は全体の41.1%を占めており、年々増加傾向にある。

経済総生産は、平成26年時点で545億3,200万円となっている。平成20年と平成26年と比較すると42億9900万円増加している。

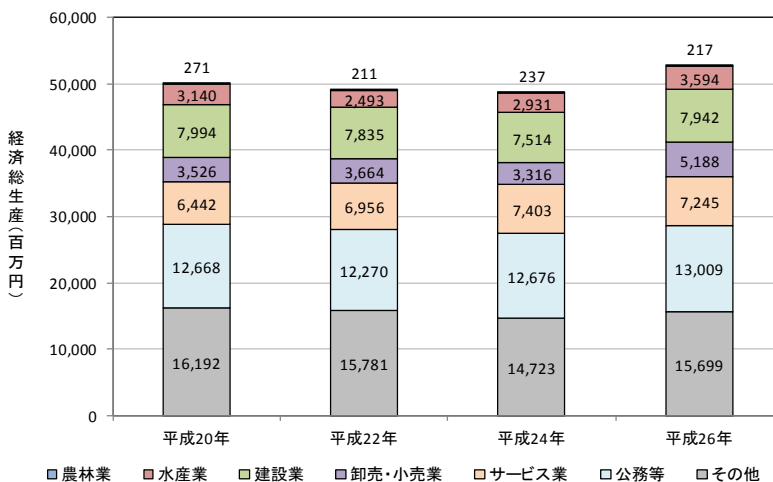
【産業別就業人口割合】



■農林業 ■漁業 ■建設業 ■卸売・小売業 ■サービス業 ■公務 ■その他

出所：国勢調査報告（総務省統計局）

【経済総生産の推移】



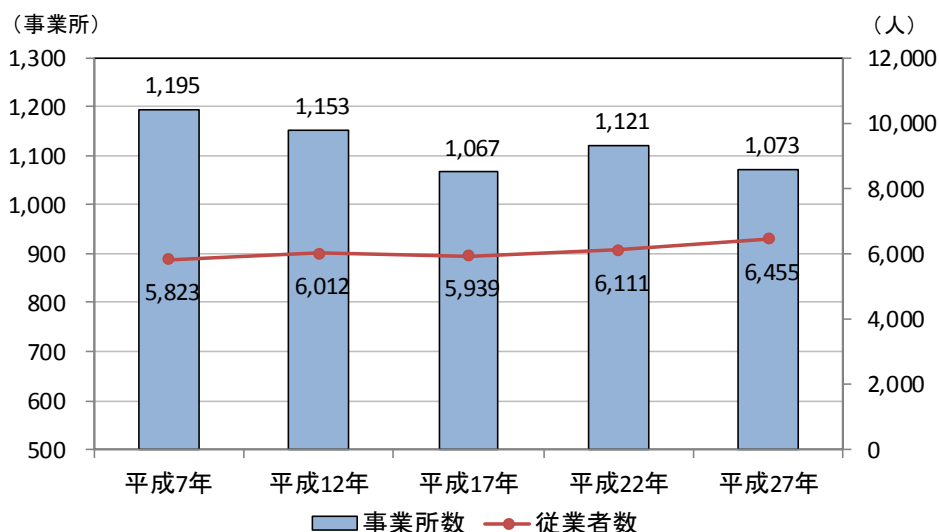
出所：島根県市町村民経済計算（島根県政策企画局統計調査課）

※ 県民経済計算の推計結果を、関係指標によって市町村毎に按分する方法により推計された数値

【事業所数・従業者数の推移】

平成27年時点で、事業所数は1,073事業所、従業者数は6,455人となっている。

その推移をみると、平成7年から平成27年の間に事業所数は122減少しているが、従業者数は632人増加している。



出所：島根県統計書 事業所・団体（島根県政策企画局統計調査課）

【一人当たり市町村民所得順位表（年度別）】

所得順位・額ともに年度によって変動しているがおおよそ中位に位置している。町村のみの順位で見るといずれも1～3位で推移している。

（単位：万円）

順位	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	市町村	金額	市町村	金額	市町村	金額	市町村	金額	市町村	金額	市町村	金額
1	松江市	2,667	松江市	2,531	松江市	2,700	松江市	2,734	松江市	2,743	松江市	2,874
2	雲南市	2,523	出雲市	2,428	雲南市	2,619	雲南市	2,608	出雲市	2,658	出雲市	2,763
3	江津市	2,443	雲南市	2,374	出雲市	2,404	出雲市	2,566	雲南市	2,545	雲南市	2,680
4	出雲市	2,368	浜田市	2,335	浜田市	2,370	浜田市	2,410	浜田市	2,423	浜田市	2,545
5	浜田市	2,319	隠岐の島町	2,310	奥出雲町	2,325	奥出雲町	2,388	江津市	2,353	益田市	2,461
6	奥出雲町	2,234	安来市	2,234	江津市	2,287	江津市	2,311	益田市	2,337	江津市	2,405
7	益田市	2,232	益田市	2,209	益田市	2,255	安来市	2,278	西ノ島町	2,326	奥出雲町	2,401
8	安来市	2,192	川本町	2,128	隠岐の島町	2,209	益田市	2,276	奥出雲町	2,303	大田市	2,385
9	大田市	2,165	江津市	2,105	安来市	2,204	大田市	2,258	大田市	2,274	安来市	2,378
10	川本町	2,135	西ノ島町	2,091	西ノ島町	2,188	西ノ島町	2,254	安来市	2,272	隠岐の島町	2,314
11	隠岐の島町	2,124	大田市	2,086	大田市	2,179	隠岐の島町	2,179	隠岐の島町	2,268	西ノ島町	2,283
12	飯南町	2,083	奥出雲町	2,062	邑南町	2,110	邑南町	2,160	川本町	2,193	吉賀町	2,273
13	西ノ島町	2,048	飯南町	2,059	吉賀町	2,093	吉賀町	2,141	吉賀町	2,182	海士町	2,268
14	邑南町	2,026	吉賀町	2,032	川本町	2,093	川本町	2,114	邑南町	2,177	川本町	2,257
15	吉賀町	2,014	邑南町	1,986	飯南町	2,047	津和野町	2,052	海士町	2,162	飯南町	2,251
16	津和野町	1,990	海士町	1,982	海士町	2,032	飯南町	2,047	飯南町	2,132	邑南町	2,240
17	美郷町	1,937	美郷町	1,933	津和野町	2,003	海士町	2,043	津和野町	2,104	津和野町	2,144
18	海士町	1,908	津和野町	1,902	美郷町	1,987	美郷町	2,001	美郷町	2,052	美郷町	2,071
19	知夫村	1,613	知夫村	1,819	知夫村	1,712	知夫村	1,682	知夫村	1,710	知夫村	1,676

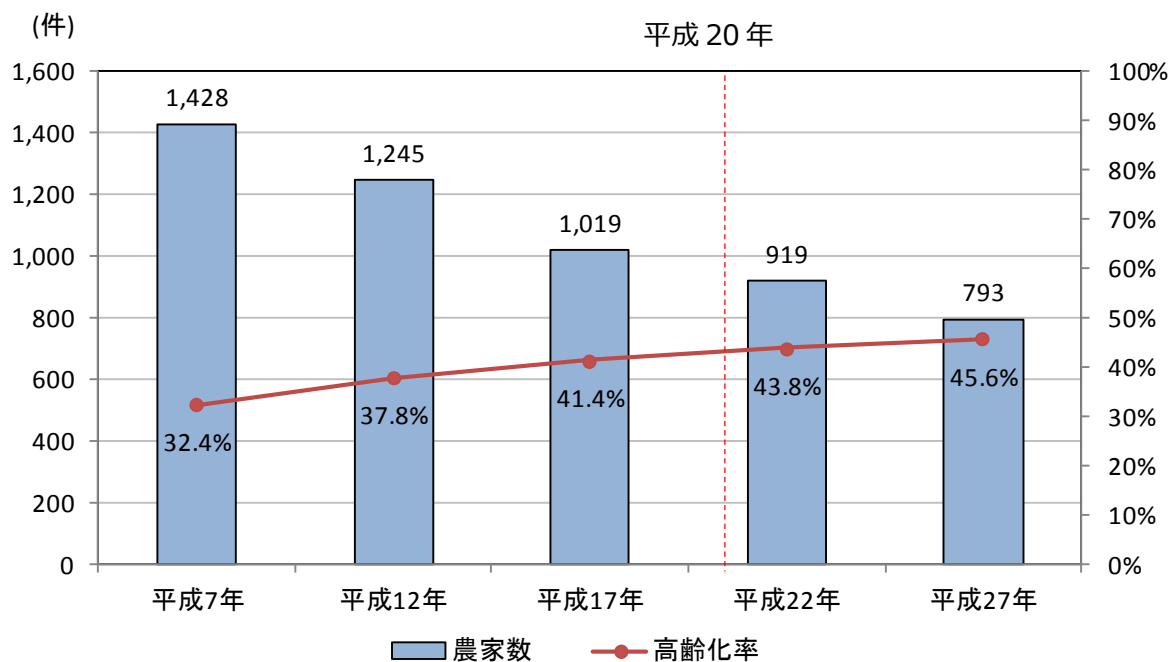
出所：島根県市町村民経済計算（島根県政策企画局統計調査課）

(2) 農業

【農家数・農家の高齢化率】

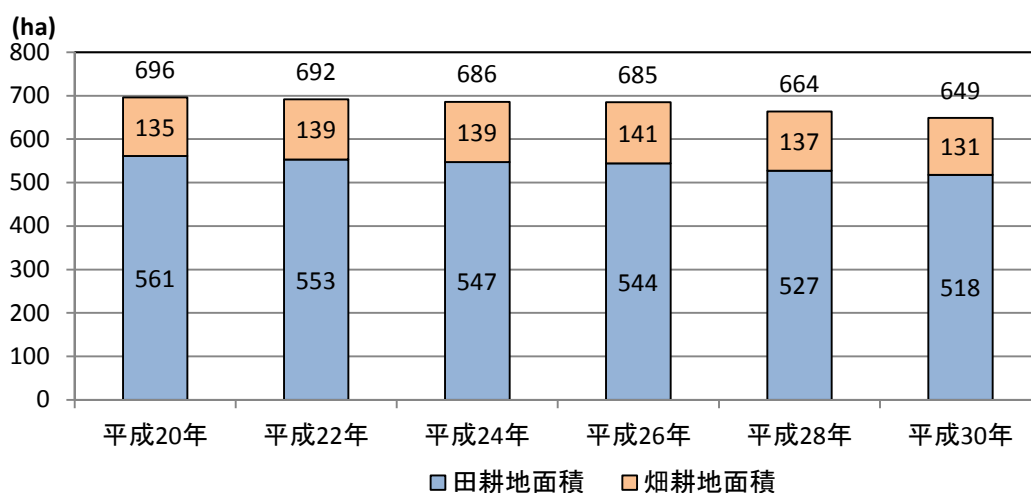
平成27年時点で、農家数は793件、農家世帯員の高齢化率は45.6%となっている。

平成7年と平成27年を比較すると、農家数は635件減少し、率にすると約45%の減少となる。農家世帯員の高齢化率は13.2%上昇している。



出所：島根県統計書 農業（島根県政策企画局統計調査課）

【耕地利用の推移】



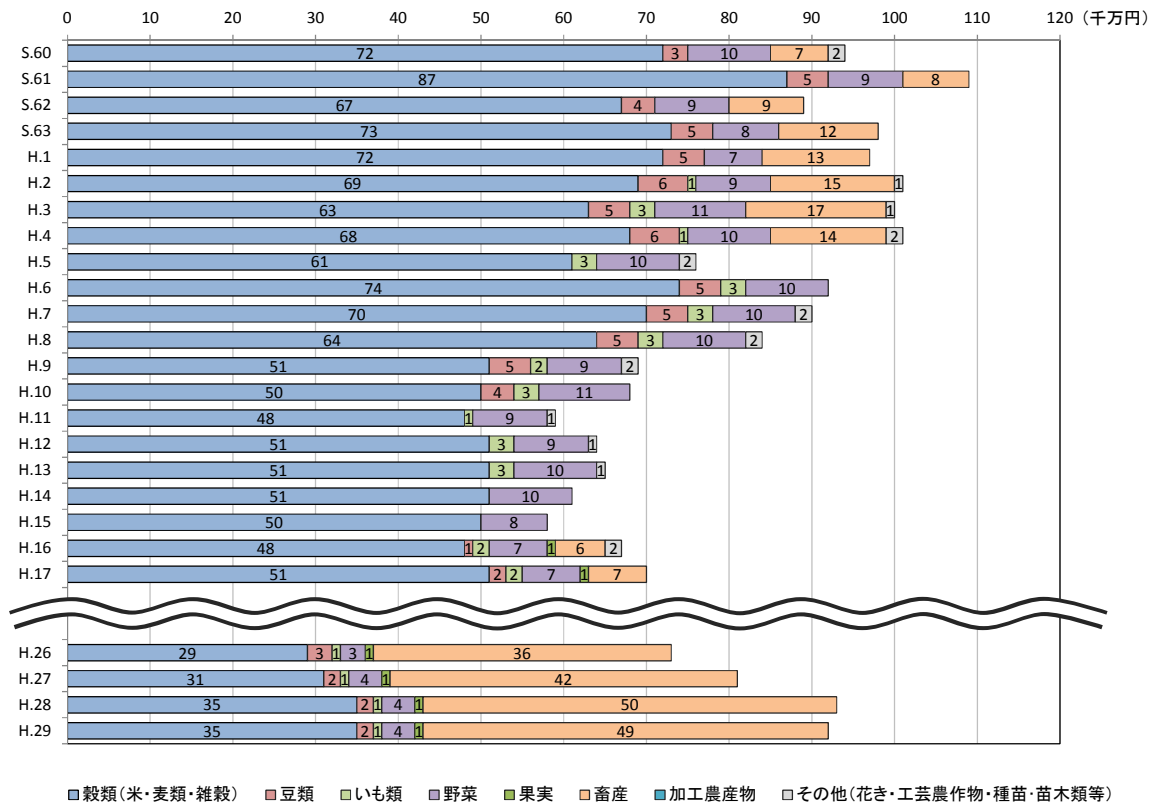
出所：農林水産省 作付面積統計より

【農業生産額】

農業生産額をみると、平成 29 年は総額が 9 億 2,000 万円であり、種類別では、穀類（米・麦類・雑穀）3 億 5,000 万円、豆类 2,000 万円、いも類 1,000 万円、野菜 4,000 万円、果実 1,000 万円、畜産 4 億 9,000 万円となる。

総額の推移をみると、昭和 61 年が最も多く 10 億 9,000 万円で、以降は減少し、平成 15 年に 5 億 8,000 万円と最小となった。平成 15 年以降は増加し、平成 29 年には平成 15 年と比較して 3 億 4,000 万円増加している。

内訳をみると、畜産の生産額が大幅に増加し、穀物と野菜は減少傾向にある。

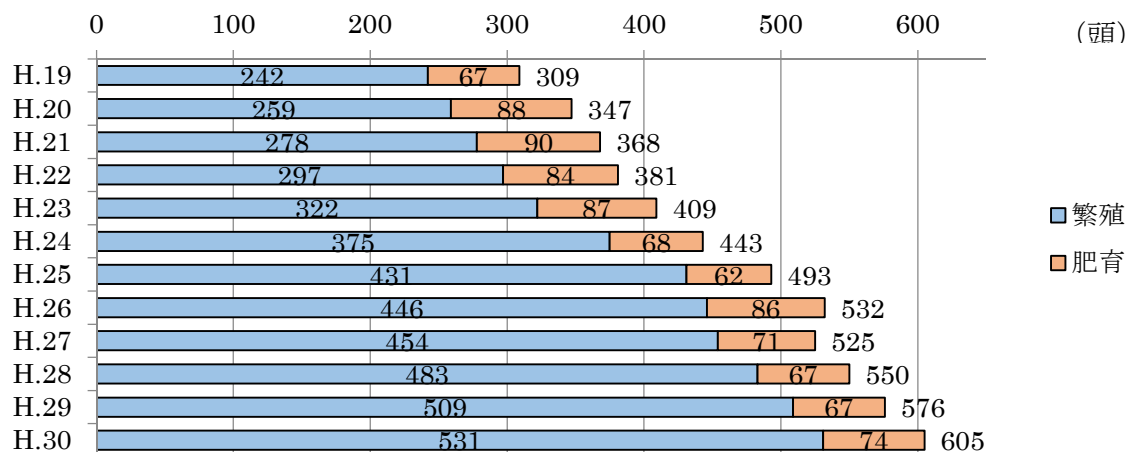


出所：【昭和 60 年～平成 17 年】生産農業所得統計（市町村別累年統計）（農林水産省）
 【平成 26 年～平成 29 年】市町村別農業産出額（推計）（農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）（農林水産省）

(3) 畜産業

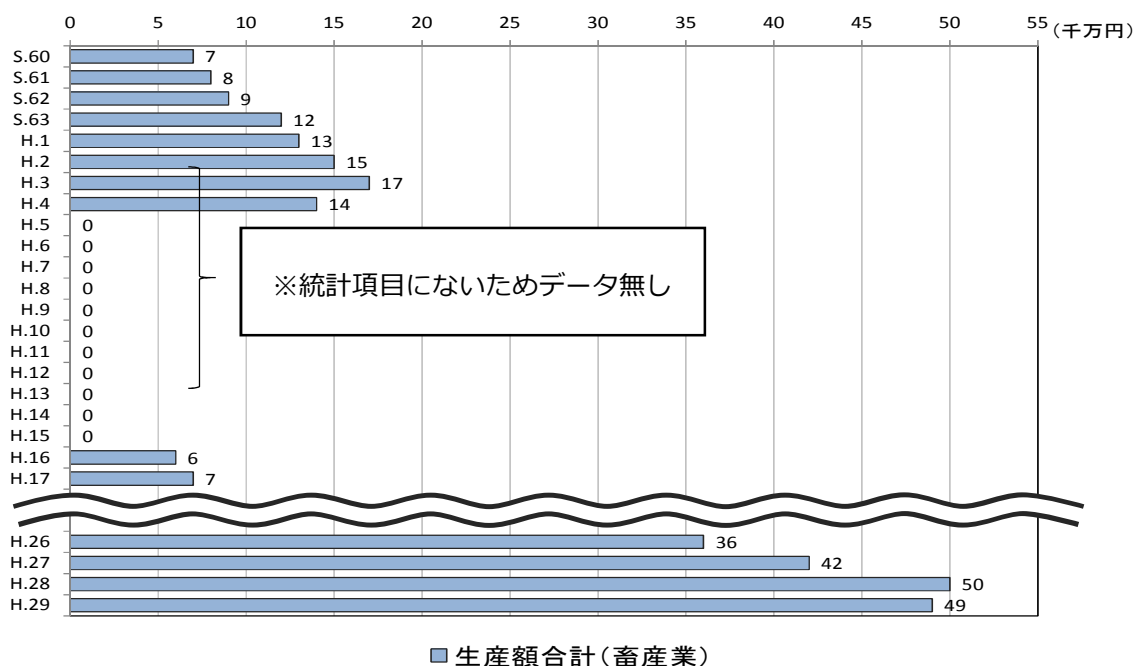
畜産業に関する統計をみると、飼育頭数は平成 19 年時点で 309 頭となっているが、平成 30 年時点では 605 頭と約 2 倍に増加している。

【飼育頭数の推移】



出所：隠岐の島町農林水産課調べ

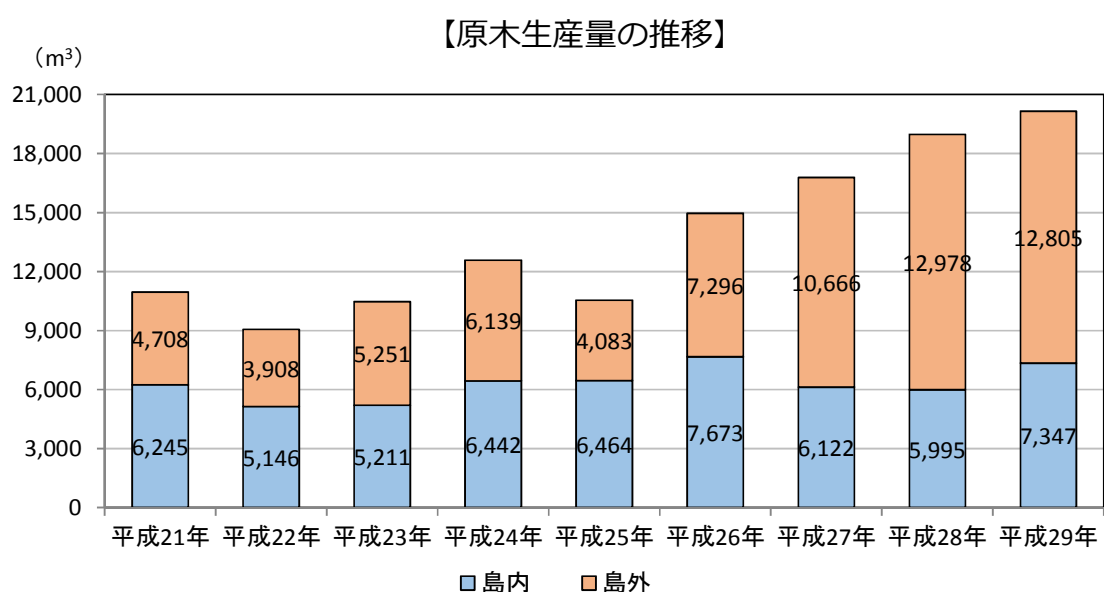
【生産額の推移】



出所：【昭和 60 年～平成 17 年】市町村別生産農業所得統計累年統計（農林水産省）
 【平成 26 年～平成 29 年】市町村別農業産出額（推計）（農林水産省）

(4) 林業

原木生産量は、平成29年時点で島内への出荷が7,347 m³、島外への出荷が12,805 m³となっている。総生産量の推移をみると、平成25年までは大きな変化はないが、平成26年から平成29年に至るまで増加傾向にある。島内、島外の出荷先別に推移の内訳をみると、平成26年以降に島外への出荷量が増加している。平成29年時点で、平成21年と比較すると、島内への出荷量が1,102 m³増加したのに対し、島外への出荷量は8,097 m³増加した。



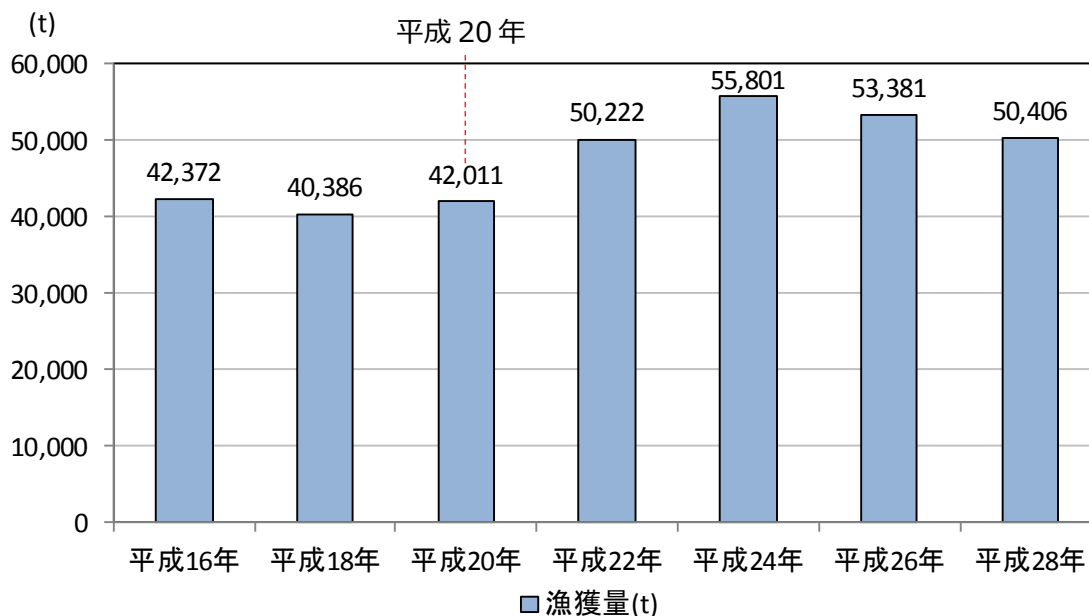
出所：隠岐の島町農林水産課調べ

(5) 水産業

平成 28 年時点で、漁獲量は 50,406 トン、漁業組織数は 342、漁船数は 1,026 隻となっている。

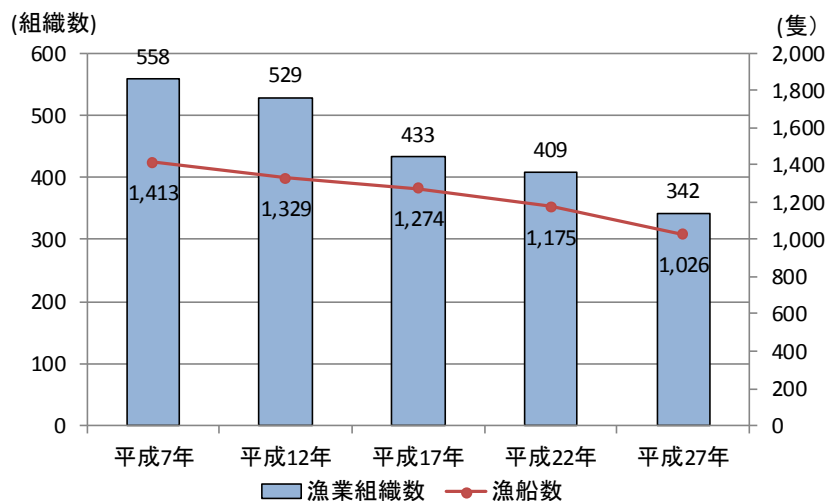
漁獲量は平成 16 年から平成 24 年にかけて増加し、平成 24 年の 55,801 トンをピークに以後、減少傾向となっている。平成 24 年から平成 28 年の間で 5,395 トンの減少となっている。漁業組織数・漁船数は、平成 7 年以降、いずれも減少傾向で推移し、漁業組織数については、平成 27 年は平成 7 年の約 6 割、漁船数は同約 7 割となっている。

【漁獲量の推移】



出所：海面漁業生産統計調査（農林水産省）

【漁業組織数・漁船数の推移】



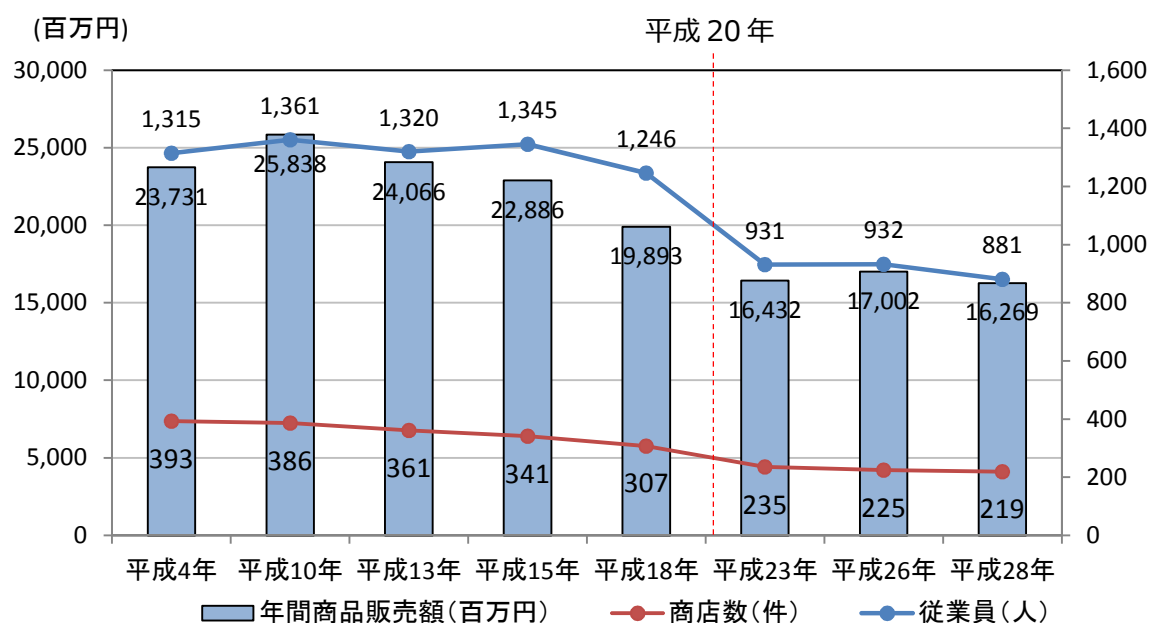
出所：島根県統計書 水産業（島根県政策企画局統計調査課）

(6) 商 業

卸売・小売業についての統計をみると、平成 28 年時点で商店数は 219 件、従業員数は 881 人、年間商品販売額は 162 億 6900 万円となっている。

その推移をみると、商店数は減少を続けており、平成 4 年から平成 28 年の間で 174 件減少している。従業員数は平成 15 年をピークに減少しており、平成 15 年から平成 28 年の間で 464 人減少している。

【卸売・小売業の推移】



【平成 4 年・平成 10 年】商業統計表(通商産業大臣官房調査統計部)

【平成 13 年～18 年】商業統計調査結果報告書(県統計調査課)

【平成 23 年～平成 26 年】経済センサス-活動調査(産業別集計)(総務省・経済産業省)
商業統計調査結果報告書(県統計調査課)

【平成 28 年】経済センサス-活動調査(産業別集計)(総務省・経済産業省)
商業統計調査(経済産業省経済産業政策局調査統計部)

4. 安心して暮らせる保健、医療、福祉の環境づくり【基本方針6】

(1) 医療

① 医療機関の立地状況

隠岐の島町には、総合的診療が可能な隠岐広域連合立隠岐病院をはじめ、公立または民間による診療施設が歯科を含めて合計 18 か所存在しており、町内各地区に偏りなく立地している。

【隠岐の島町内の医療機関数】

	病院		一般診療所		歯科医院		合計
	公立	民間	公立	民間	公立	民間	
施設数	1	0	8	3	3	3	18

【隠岐の島町内の医療機関の立地状況】

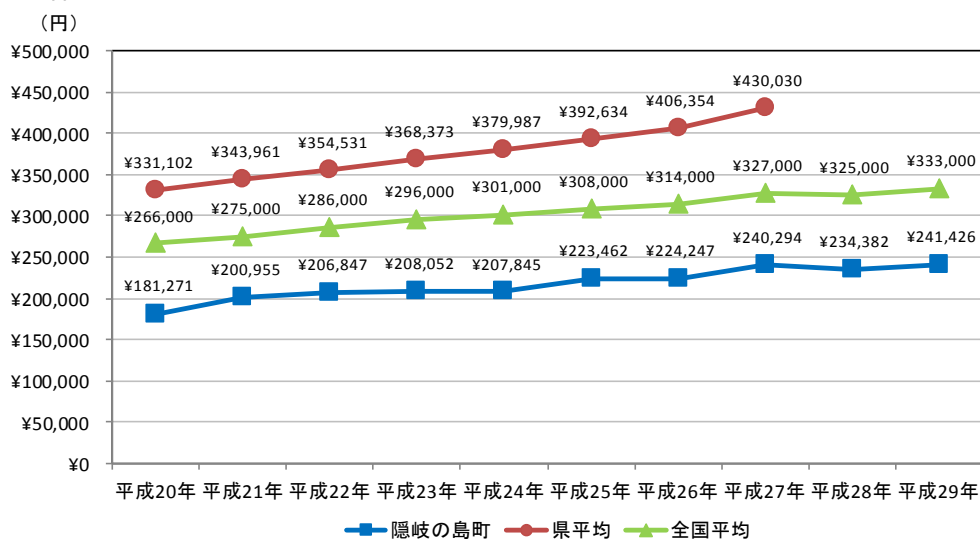


出所：地域医療情報システムより

② 一人当たりの医療費

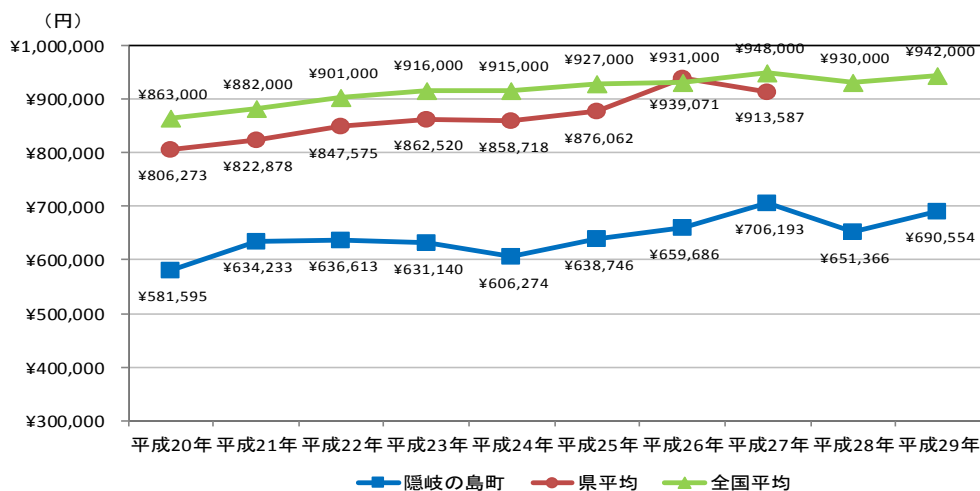
一人当たりの年間の医療費は、平成 29 年時点で国民健康保険分は 241,426 円、後期高齢者医療保険分は 690,554 円である。推移をみると、全国及び島根県と同様に増加傾向にあるが、全国及び島根県を下回っている。平成 20 年と平成 29 年を比較すると、国民健康保険は 60, 155 円、後期高齢者医療は 108, 959 円高くなっている。

【国民健康保険】



出所：【隠岐の島町】人口動態統計及び島根県統計データベースから算出
 【県平均】第 2 期島根県医療費適正化計画・第 3 期島根県医療費適正化計画
 【全国平均】医療費の動向調査

【後期高齢者医療保険】

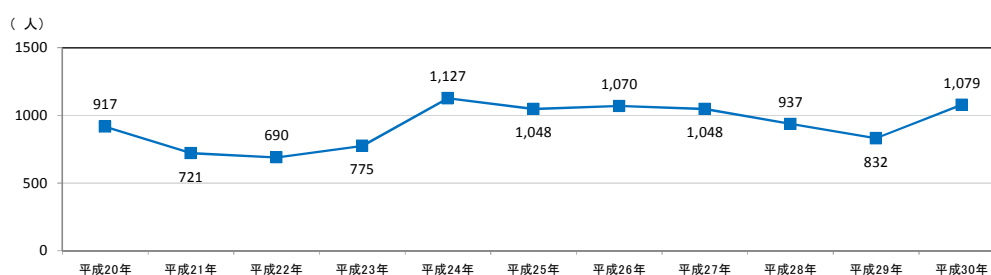


出所：【隠岐の島町】人口動態統計及び島根県統計データベースから算出
 【県平均】第 2 期島根県医療費適正化計画・第 3 期島根県医療費適正化計画
 【全国平均】医療費の動向調査

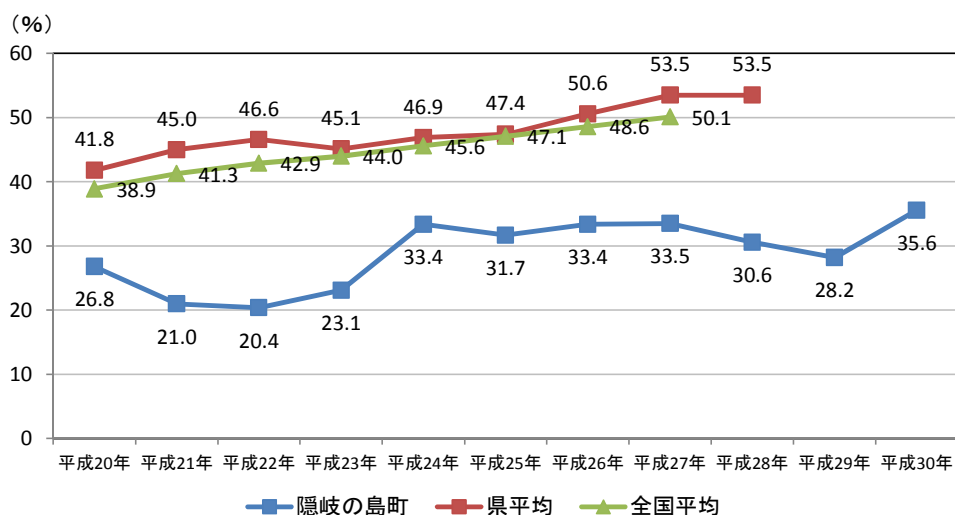
(2) 保 健

健康保険法の改正により、2008年4月より40～74歳の保健加入者を対象として糖尿病や高脂血症、高尿酸血症などの生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目した「特定健康診査」を実施している。隠岐の町における特定健診の受診者数は平成30年で1,079人である。受診者数・受診率とも制度開始移行増加傾向にあるものの、受診率は島根県および全国平均に比べ約20ポイント程度低くなっている。

【特定健康診査受診者数の推移】



【特定健康診査受診率の推移】



出所：【隠岐の島町】隠岐の島町提供データ

【県平均】特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況
(都道府県別一覧)

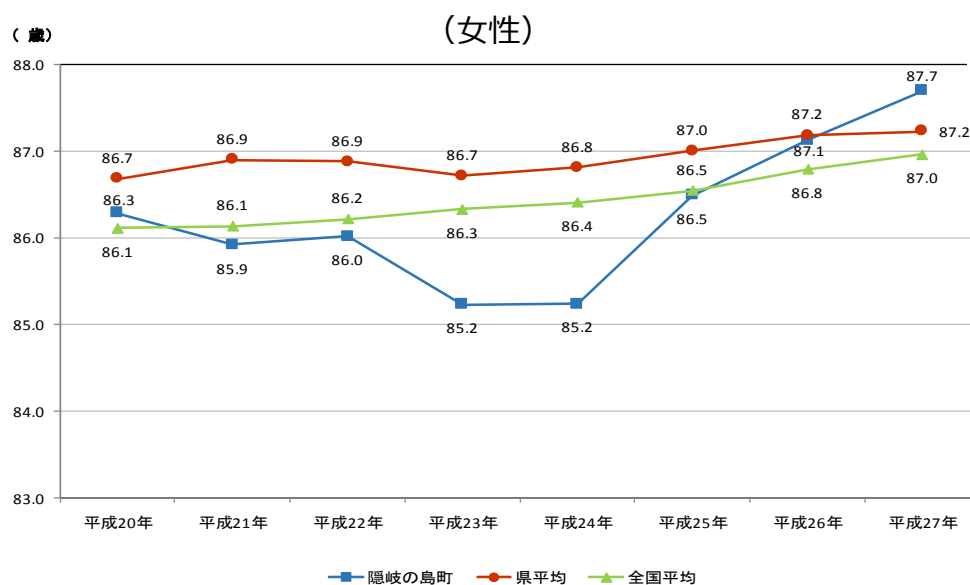
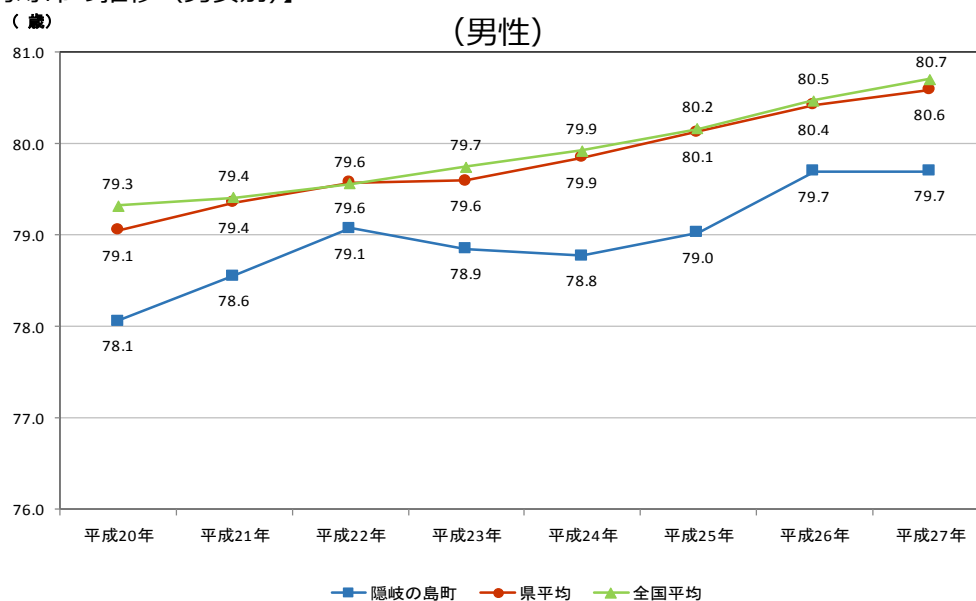
【全国平均】厚生労働省資料「2017年度 特定健康診査・特定保健指導の実施
状況について【概要】」より)

(3) 福祉

①平均寿命

隠岐の島町における平成 27 年の男女別の平均寿命は、男性が 79.7 歳、女性が 87.7 歳となり、男性に比して女性は約 8 歳平均寿命が長くなっている。男性は全国・島根県平均よりも平均寿命が短く、逆に女性は高い傾向にある。平成 20 年から平成 27 年の平均寿命の推移を見ると男女とも平成 23 年・平成 24 年に減少した後、増加に転じている。7 年間の間に、男性は約 1.6 歳、女性は 1.4 歳平均寿命が延びている。

【平均寿命の推移（男女別）】



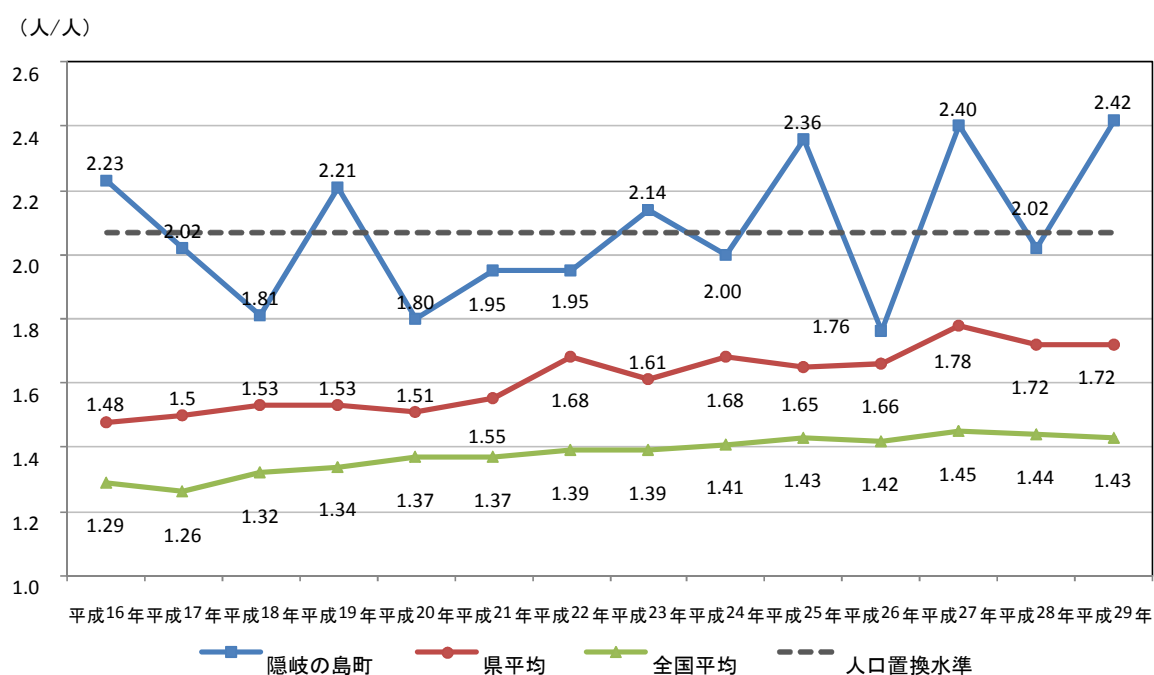
出所：【隠岐の島町・県平均】島根県健康指標データベースシステム（SHIDS）
 【全国平均】厚生労働省 平成 29 年簡易生命表より算出

②合計特殊出生率

1人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数を示す合計特殊出生率は、平成29年において2.42となり、平成16年以降、最も高い値となっている。

合計特殊出生率の推移は、平成16年以降増減を繰り返かし、人口置換水準※である2.07を上下している。いずれの年においても全国及び島根県の平均値を上回り、平成25年、平成27年、平成29年において特にその傾向が顕著である。

【合計特殊出生率の推移】



出所：【隠岐の島町】西郷保健所算出、
【県平均・全国平均】人口動態統計（厚生労働省）

注釈：人口置換水準とは、社会増減がなく、日本における死亡の水準を前提として、人口が長期的に増えも減りもせず一定となる水準をいう。

5. 安心・安全で快適な生活環境づくり【基本方針7】

(1) 道路網

平成30年度時点における町内の道路整備状況は、実延長682.8km、改良率35.82%、舗装率47.85%である。平成22年度以降、改良率、舗装率ともに僅かに増加傾向にあるものの、未だ5割に達しない状況にある。

【隠岐の島町内の道路整備状況】

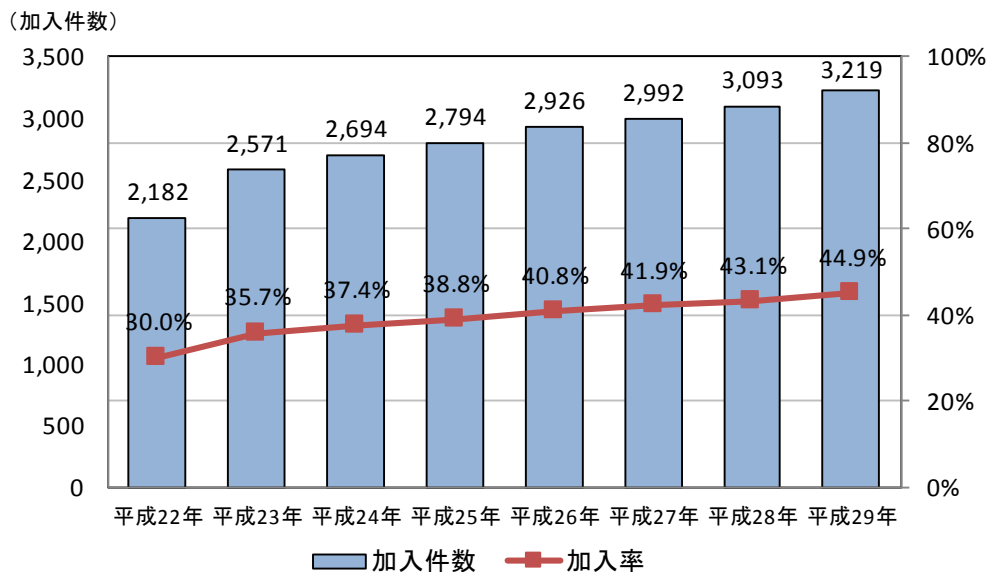
	実延長		改良延長			舗装延長		
	総延長 (km)	増減 (km)	改良延長 (km)	増減 (km)	改良率	舗装延長 (km)	増減 (km)	舗装率
平成22年度	687.3	-	239.5	-	34.85%	318.9	-	46.41%
平成23年度	689.2	1.9	241.4	1.9	35.02%	321.2	2.3	46.61%
平成24年度	687.1	▲ 2.1	242.2	0.8	35.25%	322.0	0.8	46.86%
平成25年度	685.3	▲ 1.8	243.1	0.9	35.47%	323.1	1.1	47.15%
平成26年度	683.6	▲ 1.7	243.6	0.5	35.63%	324.4	1.3	47.45%
平成27年度	683.1	▲ 0.5	243.2	▲ 0.4	35.60%	323.4	▲ 1.0	47.34%
平成28年度	683.5	0.4	243.8	0.6	35.68%	324.3	0.9	47.45%
平成29年度	683.6	0.2	244.4	0.5	35.74%	324.8	0.4	47.50%
平成30年度	682.8	▲ 0.9	244.6	0.2	35.82%	324.8	0.1	47.58%

出所：隠岐の島町役場建設課調べ

(2) 情報通信

隠岐の島町の光ファイバー接続サービスの加入件数は、平成29年時点で3,219件であり、加入率は44.9%である。平成22年の光通信整備以降、加入件数は増加を続けている。

【光通信網整備以降の光ファイバー加入件数・加入率の推移】

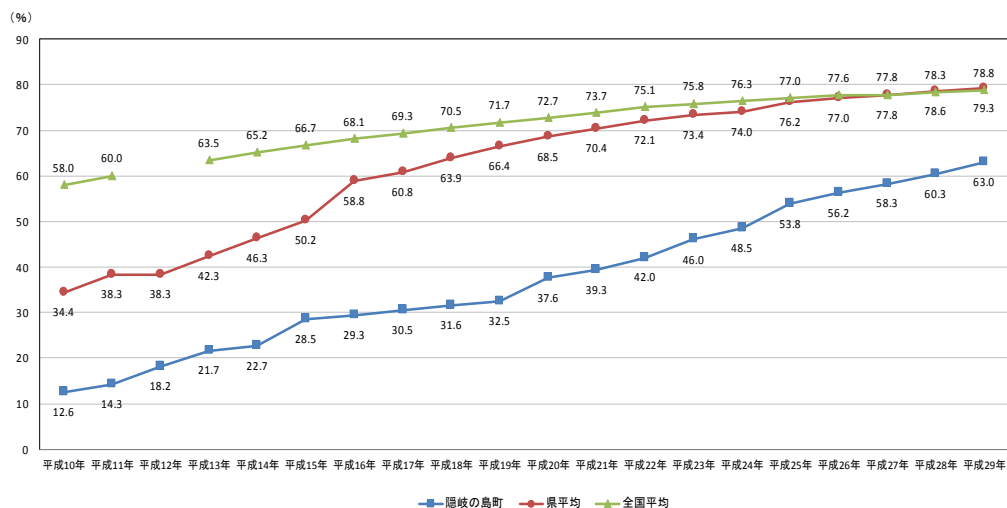


出所：隠岐の島町役場総務課調べ

(3) 下水道整備

下水道の整備率は平成 29 年度には 60%を超えている。推移をみると年々増加をしており、平成 10 年と平成 29 年を比較すると 6 倍近くまで増加している。しかし、依然として全国や島根県の整備状況とは隔たりがある。

【下水道の整備状況の推移】



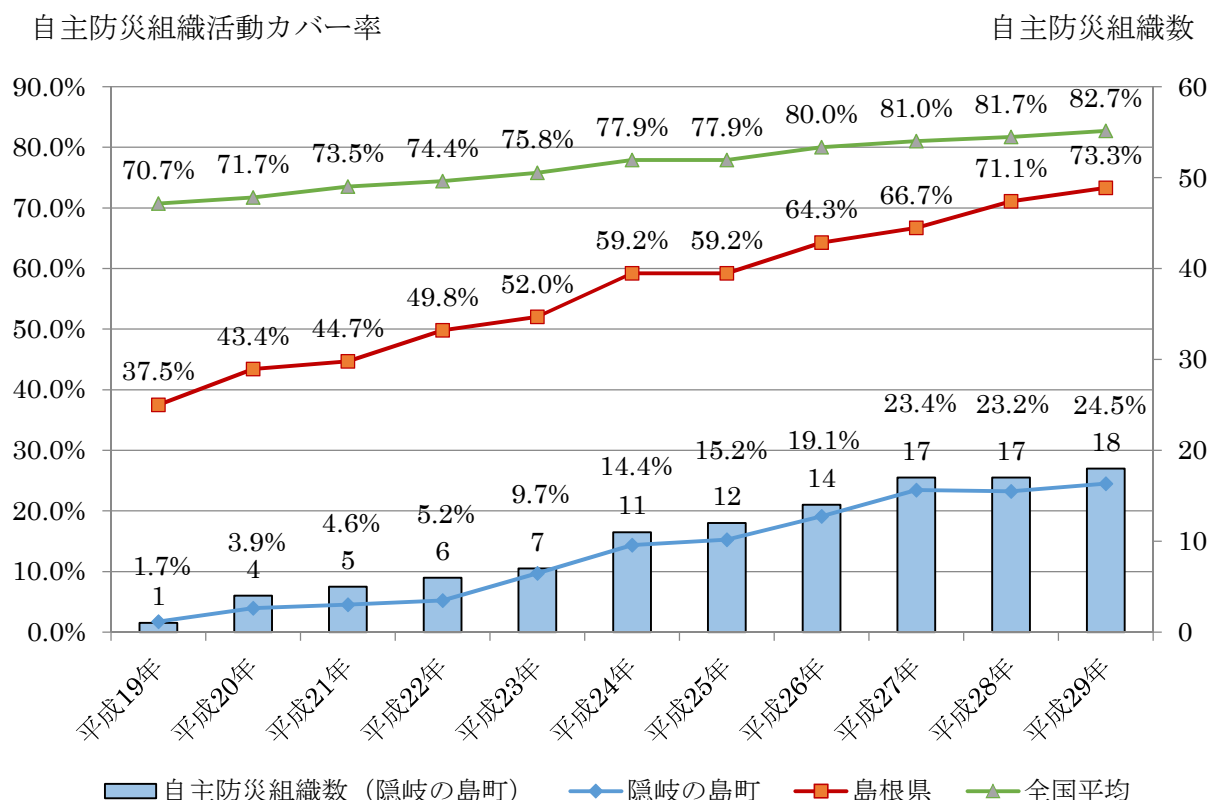
出所：【隠岐の島町・県平均】 汚水処理人口普及率より

【全国平均】 瀬戸内海の環境情報

(4) 防災（自主防災組織）

自主防災組織は、平成29年度には18組織ある。推移をみると平成19年度には1組織であったことから急速に増加しているのがわかる。これに伴って組織率も平成19年度の1.7%から平成29年度には24.5%まで上昇している。しかし、全国や島根県の組織率と比較すると低い水準にある。

【組織率（自主防災組織活動カバー率）の推移】



【隠岐の島町自主防災組織設置状況】

地区名	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
西郷	1 (大久地区)		1 (栄町2区)		1 (中町)	2 (東町) (前の原)		1 (今津)	2 (唐井) (池田)		1 (飯田)
布施								1 (布施)			
五箇		1 (南方)				1 (久見)	1 (小路)				
都万		2 (油井) (西里)		1 (上那久)		1 (津戸)			1 (蛸木)		

出所：【隠岐の島町の自主防災組織数・自主防災組織活動カバー率】隠岐の島町提供資料
【県平均・全国平均】消防白書（消防庁）

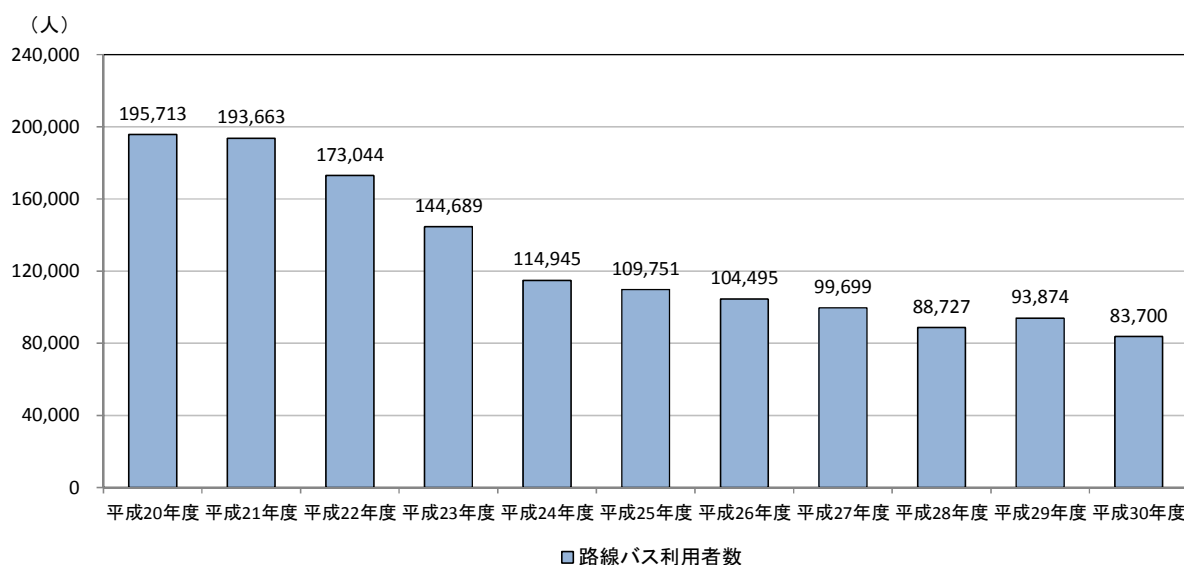
注釈：自主防災組織活動カバー率は、「自主防災組織が組織されている地域の世帯数÷総世帯数」で算出

(5) 路線バス

平成30年の路線バスの利用者は、83,700人であり、平成20年度以降、利用者数は年々減少傾向にある。過去10年間の数値を見ると、平成22年度から平成24年度までは減少幅が著しいのに対し、平成25年度以降については、その傾向が緩やかになっていることが見て取れる。

利用者数の減少については、人口の減少に加えて、モータリゼーションの進展がその要因として考えられる。

【路線バス利用者数の推移】



出所：一般乗合旅客自動車運送事業輸送実績報告書より

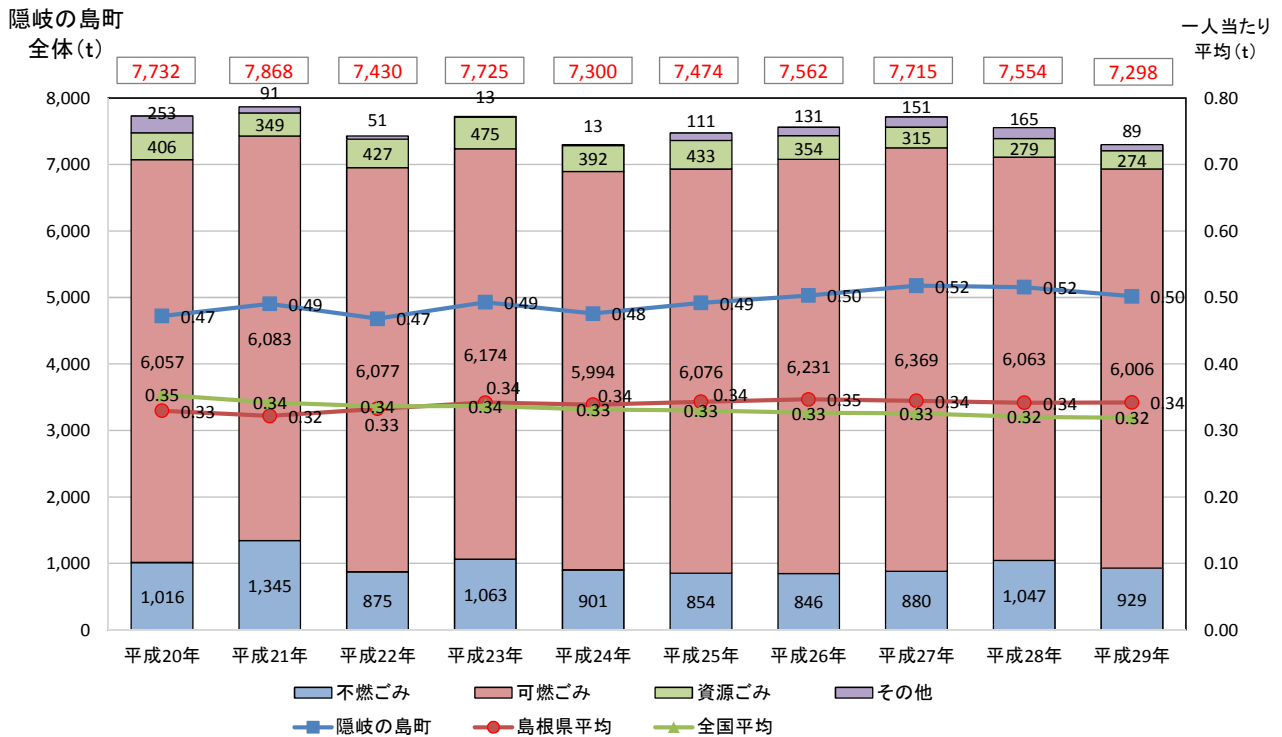
6. うるおいのある自然環境づくり【基本方針8】

(1) ごみの処理量

隠岐の島町のごみ排出量は、平成29年時点で、年間7,298tであり、過去5年間の傾向としては僅かに減少傾向にある。

1人当たりの平均値は、全国・県平均に比べて大きく上回っている

【隠岐の島町全体のごみ処理量及び隠岐の島町・全国・島根県の住民一人当たりのごみ処理量の推移】



出所：【隠岐の島町データ】 隠岐の島町調査

【県平均・全国平均】 環境省廃棄物処理技術情報

注釈： 内は各年の総量